CSR 経営評価意見書

大阪有機化学工業株式会社　御中

＜目的と実施した作業についての概要＞

大阪有機グループの事業と関係のない第三者として、同社が作成する「CSR レポート 2020」に記載されている CSR 経営活動の評価を行うことにより、報告書の信頼性を高めることを目的として所見を述べます。

CSRレポートに記載された大阪有機グループのCSR経営活動について、上林泰二代表取締役社長へのインタビューを始め、本社担当者への質疑を実施しました。

＜評価意見＞

大阪有機グループは、昨年までは環境報告書を作成されており今回初めて CSR レポートを作成されました。2019 年度に、創業者の想いをもとに経営理念と経営ビジョン、行動指針などを体系化され、同時に、本業での社会貢献から、価値創造を通じた社会課題の解決を目指すため、SDG s と行動指針、CSR 課題（マテリアリティ）の分析を行い、一覧を公表されています。大阪有機グループの CSR 経営のスタートとして、これまでの活動とこれから目指すところを整理して開示され、CSR 経営へ取り組む強い意志を感じます。環境情報に加え、ガバナンス情報や取引先・顧客・従業員・地域社会への取り組みなどステークホルダーにも応えた構成であり、CSR 経営を行う上で重要な事項はすべてカバーした印象を受け、今後の CSR 経営が期待されます。

今後の課題としては，経営理念から行動指針、CSR 重要課題、社会課題の解決などの各項目をひとつのストーリーのように記述されますと，よりメッセージが明確になると感じられます。また CSR 各項目に行動指針は明示されていますが、数値目標が開示されていない項目が多いようにも思います。数値目標は必須ではありませんが，可能な範囲で KPI（主要なパフォーマンス指標）を設定することも進捗状況を掴むためには必要な場合があります。目標と進捗がわかる指標の導入が、次の課題として期待されます。

CSR 重要課題として、マテリアリティを選定され、大阪有機グループが優先すべき課題が分かりやすくなりました。選定の方法については、社会の視点を入れることが大変重要であり、直接外部からの意見を取り入れることが望まれます。ステークホルダー・ミーティングを開催するなど、外部の意見を取り入れていただきたいと思います。

環境情報は数値情報が豊富で詳細なデータも記載され充実しています。その他の情報は、比較して情報量が少なく、今後の充実を期待します。特に社会性項目において、従業員がどのように感じインセンティブをもって活動しているのかが見たいと思います。具体的な事例なども紹介していただければ、大阪有機グループを知ることにつながると思います。

今回の新型コロナウィルス感染症対策のため、大阪有機グループにおいても、オンラインによる在宅ワークなど、仕事の内容や働き方が大きく変わりました。社会の在り方も変わる中、大きな変化の予兆を感じます。仕事内容や働き方が変わっても、大阪有機グループの経営理念を基盤に活動されることこそが重要です。まずは、すべての社員への理念の浸透を図り、個人の行動のベースになるまで落とし込むことが肝要です。経営理念は、普遍のものであり行動のよりどころとして機能することが期待される存在です。今後この CSR レポートを通じて、社外へも広がるものだと期待しております。

2020 年 6 月 19 日

株式会社　環境管理会計研究所

國部克彦

國部克彦（取締役／神戸大学大学院経営学研究科教授）

梨岡英理子

梨岡英理子（代表取締役／公認会計士・税理士）